

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の再評価報告(令和元年度報告)

静岡県

- 被害防止計画の作成数、特徴等
本県では、34市町で被害防止計画が策定されている。各市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、被害防止目的の捕獲、緩衝地帯の整備、被害防止研修会等を実施している。
- 事業効果の発現状況
市町による地域住民を主体とした被害防止対策の取組と、件によるそれらの取組の支援を通じて、農作物被害額はピークであった平成21年度から減少傾向にある。
- 被害防止計画の目標達成状況
平成29年度を被害防止計画の目標年度として事業の再評価を行った2市のいずれも、目標は達成できなかった。
- 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価(農林事務所案)		
										被害金額(千円)			被害面積(a)							
										基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値				実績値	達成率
裾野市鳥獣被害防止対策協議会	裾野市	平成27年度～平成29年度	ニホンジカ・イノシシ用大型箱わな5基の整備	推進事業	(H27)ニホンジカ・イノシシ用大型箱わな5基の整備	裾野市鳥獣被害防止対策協議会	—	—	推進事業で整備した機器の活用等により、平成29年度以降イノシシの捕獲頭数は増加しており、ニホンジカの捕獲頭数も順調に進んでいる。	474	330	1,239	-531%	316.0	219.0	848.0	-548%	<p>・改善計画に基づき、実施隊による農家への指導や箱わなの設置講習会を行った。また、被害農地周辺でのくくりわなの設置を進め、有害鳥獣の集中捕獲に取り組んだ結果、被害金額及び被害面積はいずれも目標達成には至っていないが、被害金額は前年度に比べ13%減少させることができ、徐々に効果が表れている。</p> <p>・平成29年度に更新した被害防止計画の目標達成に向け、これまでの取組を継続するほか、令和元年8月に被害防止計画を変更し、実施隊による箱わなでの捕獲活動を新たに実施することとしている。</p> <p>・被害金額、被害面積ともに目標達成には至っていないが、平成26年度の計画策定時に被害作物に加えなかった米の被害が実績として表れたことがひとつの要因であり、平成29年度に更新した被害防止計画では、実態に即した目標値を設定したところである。さらに目標達成に向け実施隊による捕獲活動を実施するよう被害防止計画を変更し、近隣市町と連携した効率的な有害捕獲活動に取り組むこととしている。</p> <p>・被害調査に関しては、J.A.、農業共済、農家への聞き取りや被害防止目的捕獲申請時の書類等で確認しているが、年度ごとに被害面積、被害金額に差が出る傾向にあり、より的確な調査手法の確立が課題である。</p>	被害状況調査は被害防止計画の視察と実態を正確に把握するとともに地域別傾向を分析するなどして実効性のある対策につなげてほしい。	被害状況調査は被害防止計画の視察と実態を正確に把握するとともに地域別傾向を分析するなどして実効性のある対策につなげてほしい。
					(H28)デジタル無線機35基、ドッグマーカー4基の整備		同上	—		—										
					(H29)鳥獣被害対策実施隊による被害状況調査120回/年		同上	—		—										
					緊急捕獲活動支援事業		(H27)ニホンジカ90頭イノシシ17頭	—		—	—	被害の主因であるニホンジカ、イノシシの捕獲に取り組んだ結果、被害金額は徐々に減少している。 H28 1,511千円 H29 1,428千円 H30 1,239千円								
菊川市有害鳥獣対策協議会	菊川市	平成27年～平成29年	イノシシ、ハクビシン、アライグマ、サル、カラス	推進事業	(H27)箱わな(大)7基購入 捕獲活動への指導等 11回 初心者向け捕獲技術講習会の開催 1回 獣肉処理に関する講習会の開催 1回 被害防除研修会の開催 1回(49)箱わな(大)7基購入 捕獲活動への指導等 3回 初心者向け捕獲技術講習会の開催 1回 被害防除研修会の開催 3回(429)箱わな(大)5基購入 デジタル無線機 4台購入 捕獲活動への指導等 13回 初心者向け捕獲技術講習会の開催 1回 被害防除研修会の開催 3回	—	—	<p>・捕獲機材の貸出しにより設置場所が増加し、捕獲頭数の増加につながられた。</p> <p>・専門家によるイノシシの生息状況調査及び箱わな設置場所の選定や設置方法の現地指導を実施することで、箱わな初心者者の狩猟技術の向上及び事故の防止につながられた。</p> <p>・初心者向け捕獲講習会を実施することで、初心者者の狩猟技術の向上及び事故の防止につながられた。</p> <p>・鳥獣肉の活用方法について周知することで、捕獲鳥獣の処理方法についての意識を高めることができた。</p> <p>・被害対策研修会を実施することで、被害地区の住民に対し、鳥獣を寄せ付けない集落環境づくりのポイントや防護柵の効果的な設置方法を周知することができた。また、研修実施箇所は前年度改善計画に基づき、対策が進んでいない地域から</p>	2,653	1,858	6,577	△4.9	133	92	424	△7.1	<p>平成30年度のイノシシ、ハクビシンによる被害は、計画期間中最も被害の多かった。平成28年度と比較すると減少しているものの、前年度と比較すると被害面積、被害金額ともに増加していった。イノシシの捕獲頭数は年々増加しているため、被害の増加はイノシシの個体数の増加及び行動範囲の拡大が捕獲量を上回ったものと考えられる。カラスによる被害は年々減少傾向にあったが、平成30年度は増加した。アライグマ及びサルについては計画実施期間中、被害及び目撃情報はほぼ無かった。</p> <p>平成27～29年度事業の改善課題として、イノシシ生息区域が従来被害の多かった市内北部地域から拡大したため、被害発生地域が急速に拡大して、対策が追い付かなかったことが挙げられる。このため、平成30年度は、前年度に作成した改善計画に基づき、対策の進んでいない地域において積極的に研修会を開催したほか、若い手の育成支援、電気捕獲器への補助金の利用促進等の防除取組を進めると共に、猟友会とも連携して、市域全域での捕獲支援体制の整備に努めた。</p>	<p>目標の被害金額や面積を達成することはできなかったものの、箱わな初心者に対する現地指導や被害防除研修会の開催により生産者に意識啓発を行った点を評価したい。今後も鳥獣被害対策に取り組むとともに、対策の進んだ地域の取り組みを積極的に情報発信し、対策が広まることを期待する。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 首席研究員 水井陽介)</p> <p>市では、目標の適正化と共に、対策が手薄であった地域での研修実施や猟友会との連携強化に努めており、今後の事業成果を期待する。</p>	<p>目標達成はかなわなかったが、客観的には、主たる畜獣であるイノシシの行動範囲が、市北部から南部へ急速に拡大したこと、生息個体数が増加したと考えられることが、計画作成時点(H27年度)の目標想定を超えていた事も原因と考えられる。</p>	
					(H28)イノシシ 成獣29頭、幼獣4頭	—	—		—											
					(H28)イノシシ 成獣60頭 (H29)イノシシ 成獣74頭、幼獣8頭	—	—		—											
					緊急捕獲活動支援事業	(H27)イノシシ 成獣29頭、幼獣4頭	—		—	—	被害の主因であるイノシシ、イノシシの捕獲に取り組んだ結果、被害金額は徐々に減少している。 H28 1,511千円 H29 1,428千円 H30 1,239千円									